

コンベニア<sup>®</sup>注は、溶解後、色が変化します。



溶解日

溶解後10日

溶解後17日

溶解後28日

帯黄色

帯赤色

本剤のご使用にあたっては、以下の点にご留意ください。

- 本剤を溶解後は外箱に戻し、遮光して2~8℃で保存してください。
- 溶解後はバイアル及び外箱に溶解日を記載し、4週間以内に使用してください。
- 本剤は他のセファロスポリン系注射剤と同様に、溶解液は時間の経過とともに帯黄色~帯赤色に変化しますが、貯法及び使用期限にしたがって保存した場合は、有効性・安全性に影響はありません。
- 本剤は注射用水10mLで溶解して使用してください。

【成分・分量】

コンベニア注は、白色~淡黄色の粉末または塊で、注射用水で溶解して用いる。1バイアル(20mL容器)中にセフォペンナトリウム852mg(力価)を含有する。

【効能・効果】

【有効菌種】

スタフィロコッカス・アウレウス、スタフィロコッカス・インターメディウス、スタフィロコッカス・シムランシ、プロテウス・ミラビリス、パストレルラ・ムルトシダ、大腸菌、本剤感受性のその他のブドウ球菌属及びレンサ球菌属

【適応症】

犬: 細菌性皮膚感染症、細菌性尿路感染症  
猫: 細菌性皮膚感染症

【用法・用量】

本剤は、表示力価に従い1mL当たり80mg(力価)となるように注射用水で溶解して用いる。体重1kg当たりセフォペンとして下記のとおり皮下に1回注射する。

犬: 8mg(力価)  
猫: 8mg(力価)

【使用上の注意】

【一般的注意】

- (1) 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方せん・指示により使用すること。
- (2) 本剤は、第一次選択薬が無効の症例のみに限り使用すること。
- (3) 本剤は、効能・効果において定められた適応症の治療にのみ使用すること。
- (4) 本剤は定められた用法・用量を厳守し、反復投与は避けること。
- (5) 本剤の使用に当たっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、適応症の治療に必要な場合のみ投与すること。

【使用者に対する注意】

- (1) 誤って注射された者は、直ちに医師の診察を受けること。
- (2) ペニシリン系及びセファロスポリン系薬剤に過敏反応を示したことのある人は、皮膚炎等のアレルギー症状を起こすことがあるため、皮膚に付着した場合は直ちに洗い流すこと。

【犬及び猫に対する注意】

1. 制限事項

- (1) 犬及び猫以外の動物には投与しないこと。
- (2) ペニシリン系及びセファロスポリン系薬剤に過敏反応を示したことのある犬及び猫には投与しないこと。
- (3) 8週齢未満の犬及び猫には、安全性が確認されていないため、投与しないこと。
- (4) 本剤の繁殖に及ぼす影響は確認されていないため、妊娠中及び授乳中の動物には投与しないこと。

2. 副作用

ペニシリン系及びセファロスポリン系薬剤では、まれに過敏症を起こすことが知られているので、観察を十分に行い、症状があらわれた場合には適切な処置を行うこと。

3. 相互作用

本剤は血漿蛋白結合能が高く、他の蛋白結合能の高い薬物を併用すると血漿蛋白との結合において競合し、他の薬物の血漿中遊離体の濃度が変化して単独投与の場合より高くあるいは低くなる可能性がある。したがって、他の薬物の有効性及び安全性に変化が起きる可能性があるため、他の蛋白結合能の高い薬物との併用には十分注意すること。

4. 適用上の注意

- (1) 注射器具は滅菌されたものを使用すること。
- (2) 本剤は1回皮下投与により感受性菌に対して有効な血中・組織内濃度が約14日間持続するため、本剤投与後14日間は再投与する必要はない。

【取扱い上の注意】

- (1) 本剤は1容器当たり10mLの注射用水で溶解(80mg(力価)/mL)して用いること。
- (2) 本剤の溶解後はバイアルの入っていた箱に戻し、遮光して2~8℃で保存し、4週間以内に使用すること。また、バイアル及び箱の所定の場所に溶解日を記載すること。
- (3) 本剤を複数回使用する場合は、汚染菌の混入を防止するよう細心の注意を払うこと。
- (4) 使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- (5) 本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- (6) 使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。

【保管上の注意】

- (1) 小児の手の届かないところに保管すること。
- (2) 2~8℃に保存すること。

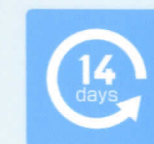
【その他の注意】

- (1) 本剤の溶解液は時間の経過と共に、帯黄色~帯赤色に変化する。
- (2) 本剤を、室温・散光条件下で4週間保存した場合に、力価は溶解時に比べ約20%低下し、また、*in vitro*の試験系において細胞毒性がみられたという成績がある。

注意—獣医師等の処方せん・指示により使用すること

# 1回の注射で14日間の安心

コンベニア注 製品情報概要



細菌性 皮膚感染症 (犬・猫)

細菌性 尿路感染症 (犬)



確実なコンプライアンスを提供するニューコンセプトのセファロスポリン系注射剤

convenia  
cefovecin

# コンベニア<sup>®</sup>注

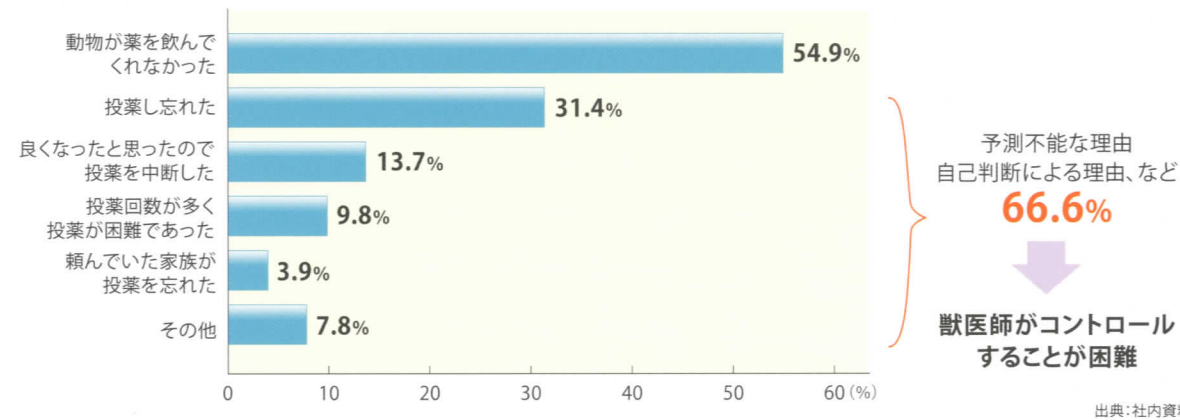
注射用セフォペンナトリウム

確実なコンプライアンスが治療効果を向上させます。

## コンプライアンス不良の理由 (飼い主)

犬・猫の飼い主が、最後まで投薬しきれなかった理由は多岐にわたります。

【薬剤投与を指示された飼い主が最後まで投薬しきれなかった理由 (飼い主)】



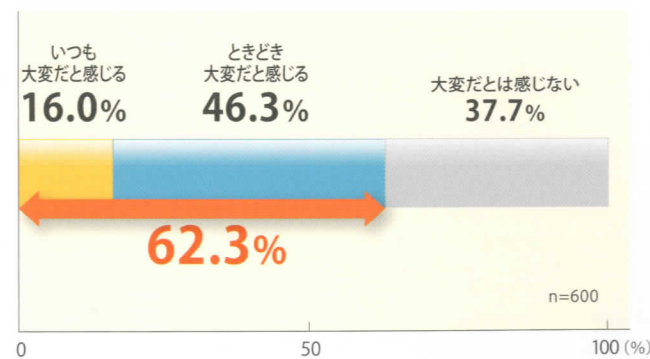
## 経口薬投与に関する実態調査 (飼い主)

コンプライアンス不良は猫だけの問題ではありません。

**犬**の飼い主の62.3%は毎日決まった時間に薬を飲ませることは「負担」であると感じています。

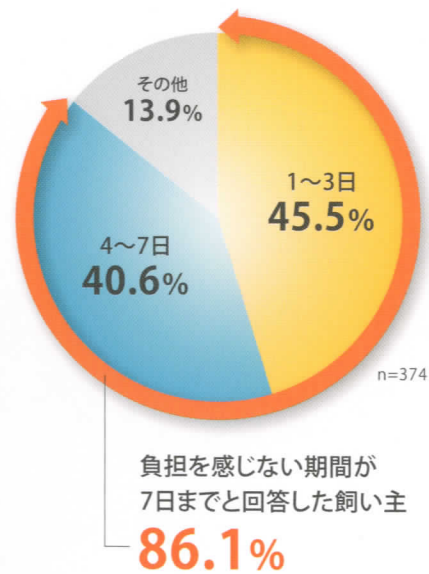
また、約半数の飼い主は3日以上以上の投薬は「負担」であると感じています。

【毎日の投薬に関する負担感 (飼い主)】



調査概要  
調査目的: 犬の飼い主における経口薬の投与に関する実態を把握する  
対象: 全国20~60代の犬の飼い主 計600人 (小型犬・中型犬・大型犬 各200人)  
方法: インターネット調査  
実施日: 2009年6月29日  
\* これまでに動物病院で経口薬 (剤形を問わず) を処方され、犬に飲ませた経験のある飼い主。ただし、フィラリアなどの予防薬、サプリメントは含まない。

【投薬の負担を感じない期間 (飼い主)】



負担を感じない期間が7日までと回答した飼い主

出典: 社内資料

## コンプライアンス

獣医師が指示した通りにきちんと動物に薬剤を飲ませるようにすることで、決められた量・時間・期間を守って確実に投薬する「投薬遵守」を意味する。

## アドヒアランス

治療成功の鍵は患者 (飼い主) の治療への積極的な参加であるとの考え方から、患者 (飼い主) が積極的に治療方針の決定に参加し、その決定に従って治療を受けることを意味する。

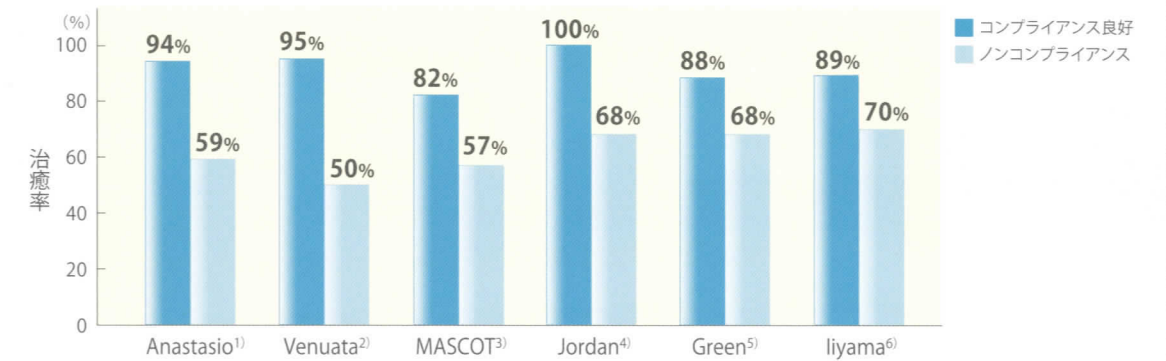
## コンコーダンス

医療関係者と患者 (飼い主) がパートナーシップの下で医薬品の処方と治療に関する意思決定を行うことを意味する。

## コンプライアンスと治療効果の関係 (ヒト)

ヒトのレトロスペクティブ研究によると、服薬率80%未満 (ノンコンプライアンス) の患者は、服薬率80%以上 (コンプライアンス良好) の患者に比べ、明らかに感染症治療率は低く、コンプライアンスの改善が重要であることが示唆されています。

【コンプライアンスと治療効果の関係 (ヒト)】

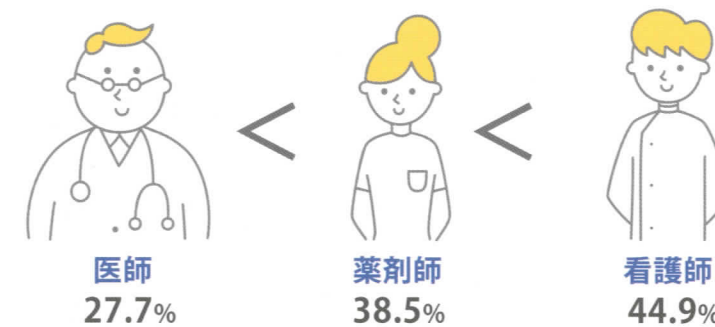


出典: 1) Anastasio, GD et al. Pharmacotherapy. 1994; 14 (2): 229-234. 2) Venuata, A. J Med Res. 1998; 26: 152-158. 3) MASCOT study group. The Lancet. 2002; 360: 835-841. 4) Jordan, WC. Sex Transm Dis. 1981; 8(Suppl. 2): 105-109. 5) Green, JL et al. J Pediatr. 1969; 75(2): 292-294. 6) Iiyama, M et al. Pediatrics. 2002; 43(1)

## コンプライアンスに影響を及ぼす要因 (ヒト)

医師がコンプライアンスに関して患者と面接を行った場合、看護師が行うよりもコンプライアンス不良の割合が少なくなる傾向がみられます。

【調査者別のコンプライアンス不良割合 (ヒト)】



出典: 青砥 広幸ら. 病院薬学 1999; 25: 22-27.

## White Coat Effect (ヒト)

投薬遵守に関して患者と面接を行った場合、誰が面接を行うかによって結果が違ってくる。医師ではコンプライアンス不良が少なくなり、看護師では多くなる傾向。

医師 < 薬剤師 < 看護師

犬・猫への投薬では、確実なコンプライアンスが得られ、飼い主が毎日の投薬ストレスから解放される薬剤が望まれます。

コンベニア®注 (成分:セフォベシナトリウム)の特長

広域スペクトルのセファロスポリン系注射剤です。

セフォベシナトリウムを主成分とし、グラム陽性・陰性菌に高い抗菌活性を示します。

1回の注射後14日間効果が持続するため確実な「コンプライアンス (投薬遵守)」が得られます。

1回の注射によりセファロスポリン系経口剤の毎日の投薬と同等の効果が得られるため、飼い主の負担を軽減できます。

優れた有効性と安全性が確認されています。

国内・海外で犬・猫各600頭以上の試験データにより実証されています。水溶液剤のため注射局所の安全性にも優れています。

コンベニア®注の効能・効果および用法・用量

成分・分量

1バイアル中にセフォベシナトリウム852mg (力価)を含有する。

効能・効果

[有効菌種]

スタフィロコッカス・アウレウス、スタフィロコッカス・インターメディウス、スタフィロコッカス・シムランス、プロテウス・ミラビリス、パストツレラ・ムルトシダ、大腸菌、本剤感受性のその他のブドウ球菌属及びレンサ球菌属

[適応症]

犬:細菌性皮膚感染症、細菌性尿路感染症  
猫:細菌性皮膚感染症

用法・用量

本剤は、表示力価に従い1mL当たり80mg (力価)となるように注射用水で溶解して用いる。犬・猫に体重1kg当たりセフォベシンとして8mg (力価)を皮下に1回注射する。

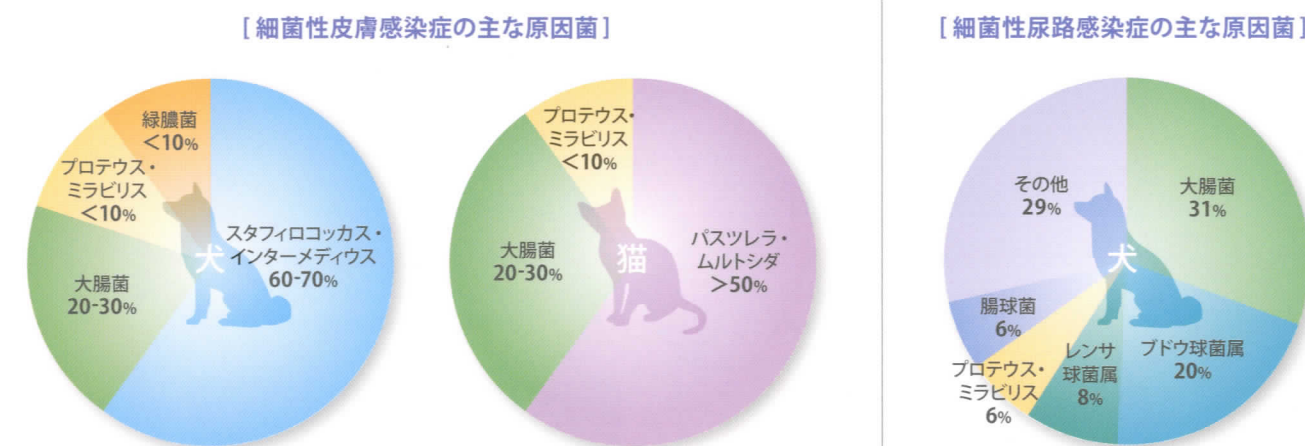
本剤は注射用水10mLで溶解してご使用ください。



convenia®

コンベニア®注は、細菌性皮膚感染症 (犬・猫) および細菌性尿路感染症 (犬) の主な原因菌を含む各種細菌に対して、高い抗菌活性を示します。

主な原因菌

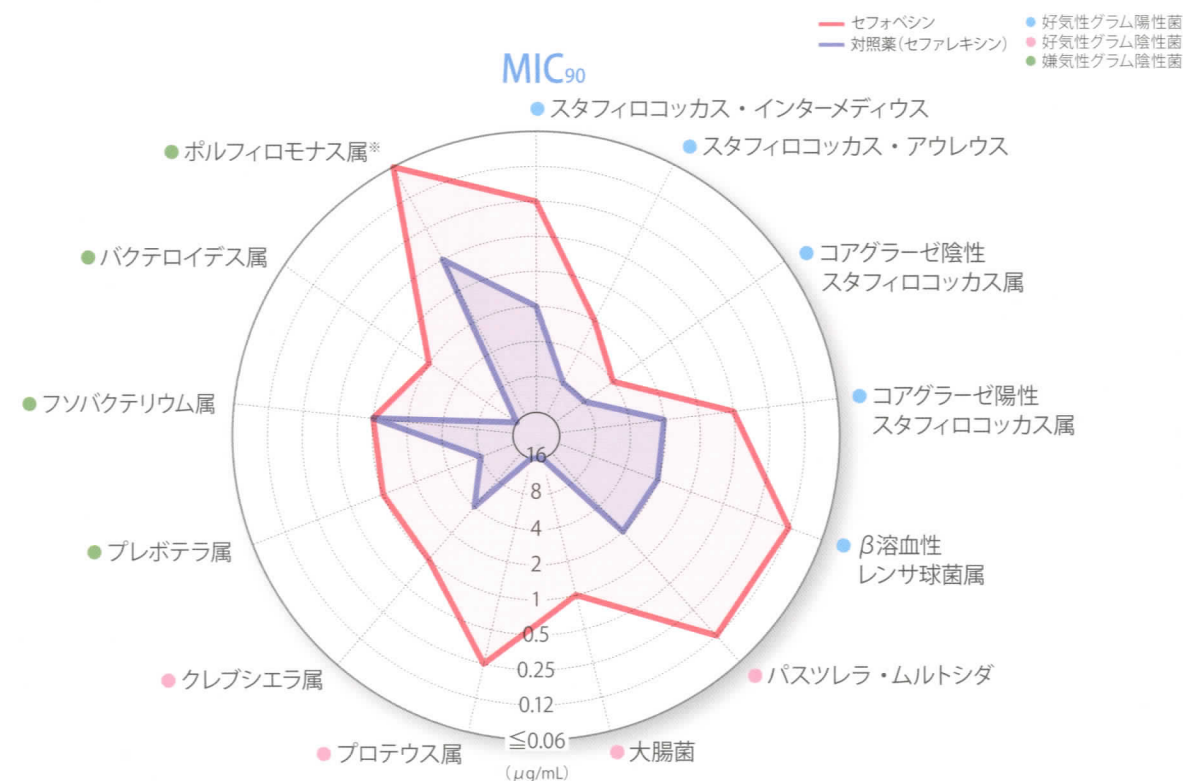


出典: TARGET (The Antimicrobial Reference Guide to Effective Treatment) First Edition, North American Compendiums Inc. / 訳者: 安川 明男 出版: ファームプレス

試験概要  
対象: 細菌性尿路感染症と診断された93頭の犬  
方法: 試験0日目に膀胱穿刺あるいはカテーテルで無菌的に採尿した尿を培養し、増殖した菌について同定を行った。  
出典: 申請資料

抗菌スペクトル

【犬および猫の分離菌に対する抗菌プロファイル (海外データ)】



試験概要  
対象: 欧州で1999~2003年において犬・猫から分離された1,291株及び米国で分離されたポルフィロモナス属29株  
方法: セフォベシン (コンベニア®注) および対照薬の最小発育阻止濃度 (MIC) を、米国臨床検査標準委員会 (CLSI (I) NCCLS)) に準拠して微量液体希釈法で測定した。  
\*ポルフィロモナス属のみは、米国で分離された株であり、米国において同様の方法で測定された。

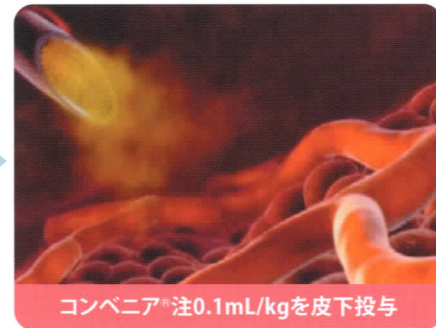
出典: Stegemann, MR et al. Antimicrob Agents Chemother. 2006; 50(7): 2286-2292.

## コンベニア®注の作用機序 (イメージ図)



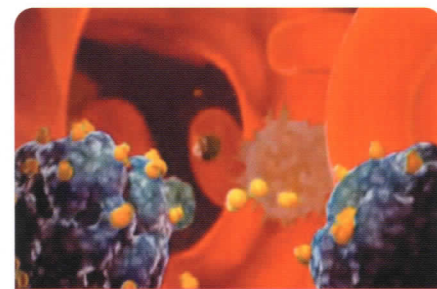
コンベニア®注 0.1mL/kgを皮下投与

コンベニア®注は水溶性のため注射部位への刺激が少なくすみます。



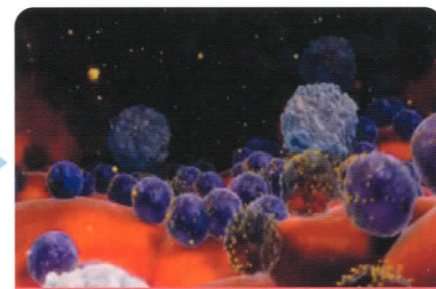
コンベニア®注 0.1mL/kgを皮下投与

注射後コンベニアは速やかかつほぼ完全に吸収されます。



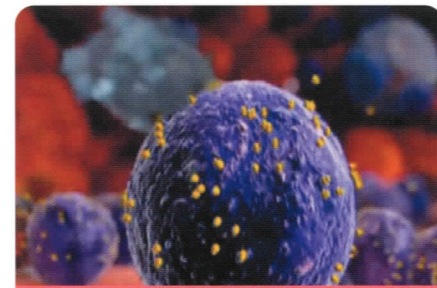
コンベニアは血漿タンパクと結合して存在

結合型コンベニアは遊離型コンベニアと平衡状態を保ちます。



感染部位における遊離コンベニア濃度上昇

間質液中のコンベニア濃度は血漿中濃度を上回ります。



細胞壁を破壊し細菌を死滅

コンベニアは細菌の細胞壁の合成を阻害します。



糸球体では遊離型コンベニアのみが濾過

結合型コンベニアは腎排泄されず血中にとどまります。

## 薬物動態パラメータ

[セフォベシンを犬あるいは猫に単回皮下投与時の平均薬物動態パラメータ]

薬物動態パラメータ	タンパク結合率 (%)	C <sub>max</sub> (μg/mL)	T <sub>max</sub> (h)	t <sub>1/2</sub> (h)
犬	96.0~98.7	121.1±50.7	6.2±3.0	133.1±15.9
猫	99.5~99.8	141.0±11.8	2.0±2.0	166.3±18.2

平均値±標準偏差  
投与量:セフォベシン 8mg/kg 1回皮下注射

出典:申請資料

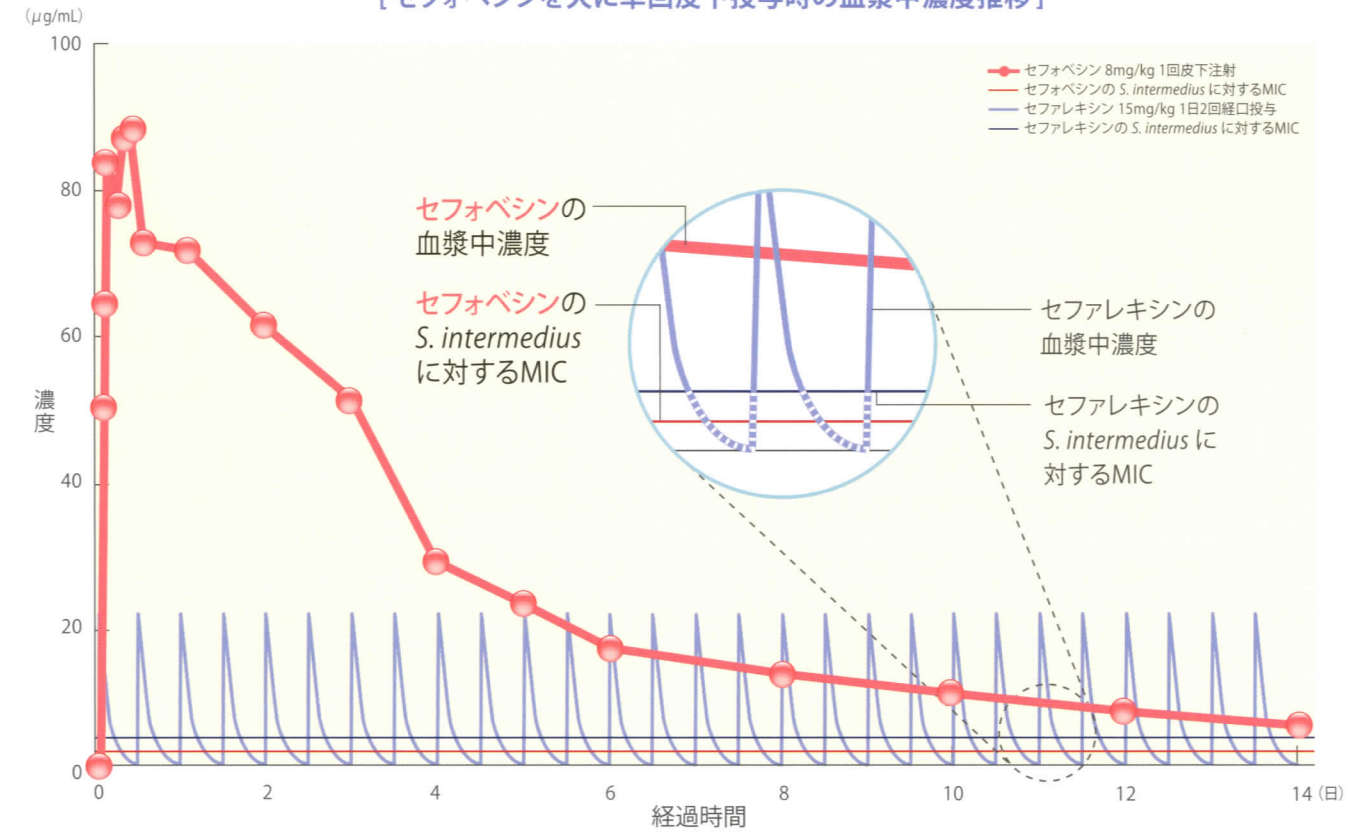
コンベニア®注は、皮下注射後14日間にわたって、有効血漿中濃度、濾出液および滲出液中濃度が維持されることが、確認されています。

## 血漿中濃度

セファロスポリン系抗菌剤は、時間依存性に殺菌作用を示します。そのため、組織内の薬物濃度を十分に高くかつ、できるだけ長時間にわたって保つことが重要です。

コンベニア®注は、1回の皮下注射で14日間にわたってMIC<sub>90</sub>以上の濃度が維持されます。

[セフォベシンを犬に単回皮下投与時の血漿中濃度推移]

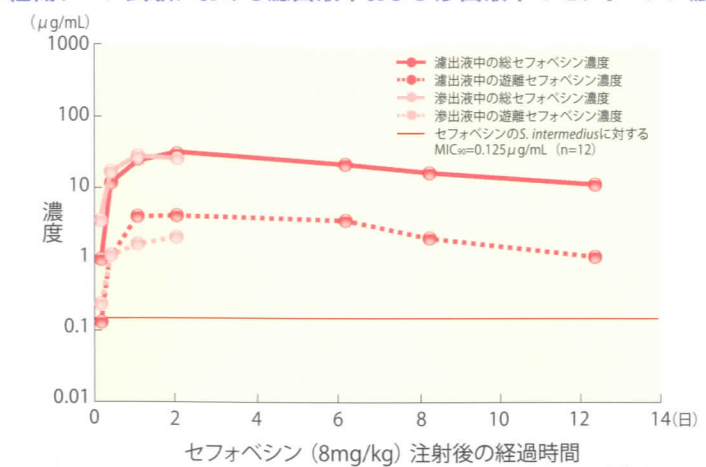


出典:申請資料, Ehinger, AM et al. Berl Munch Tierarztl Wochenschr. 2002; 115: 57-61.

## 濾出液および滲出液中濃度

コンベニア®注は組織内濾出液および滲出液中においても、14日間にわたって有効濃度が維持されることが確認されています。

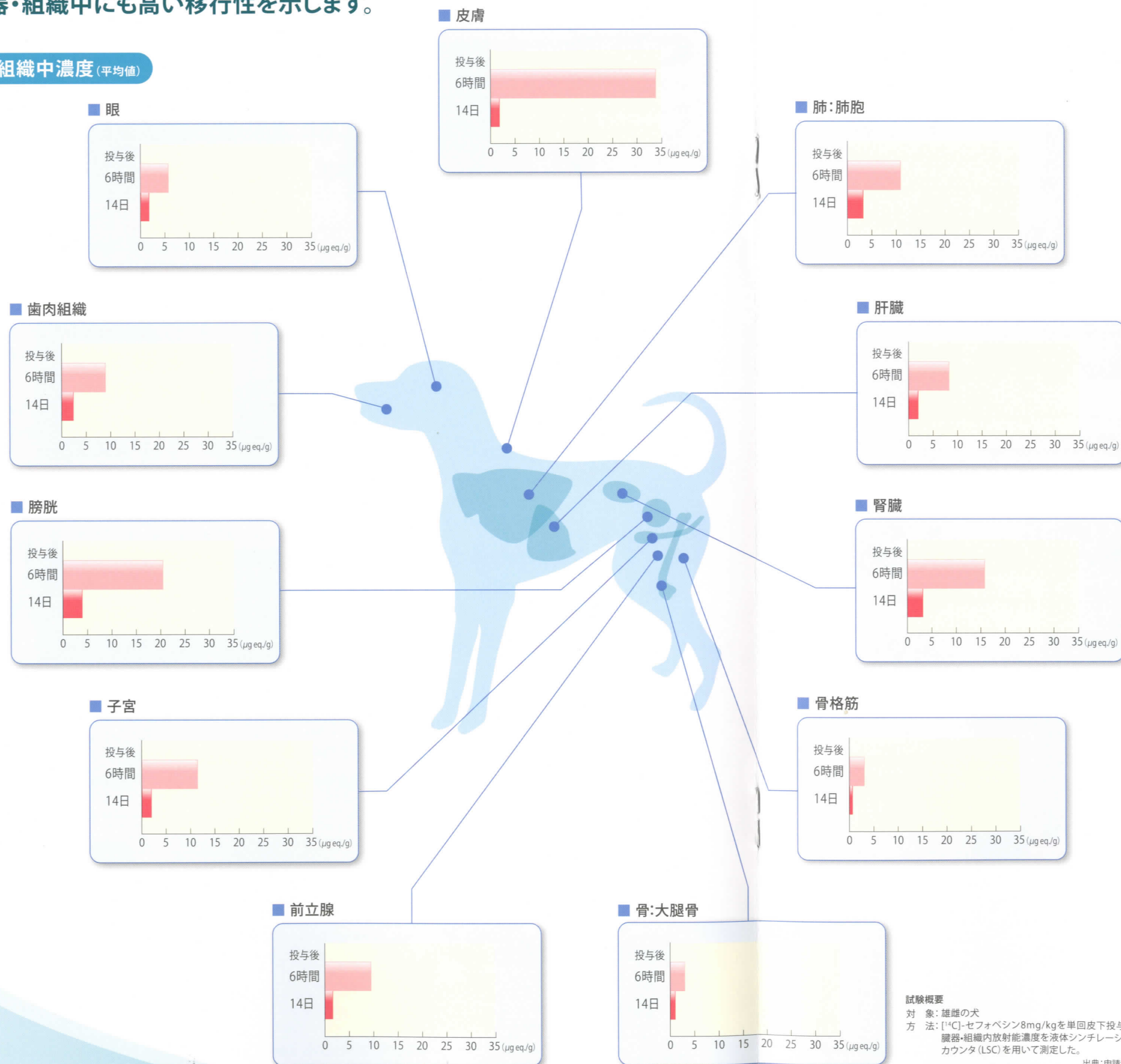
[犬の組織ケージ試験における濾出液中および滲出液中のセフォベシン濃度推移]



出典:申請資料

コンベニア®注は、単回皮下注射後、皮膚をはじめ、各臓器・組織中にも高い移行性を示します。

## 臓器・組織中濃度 (平均値)



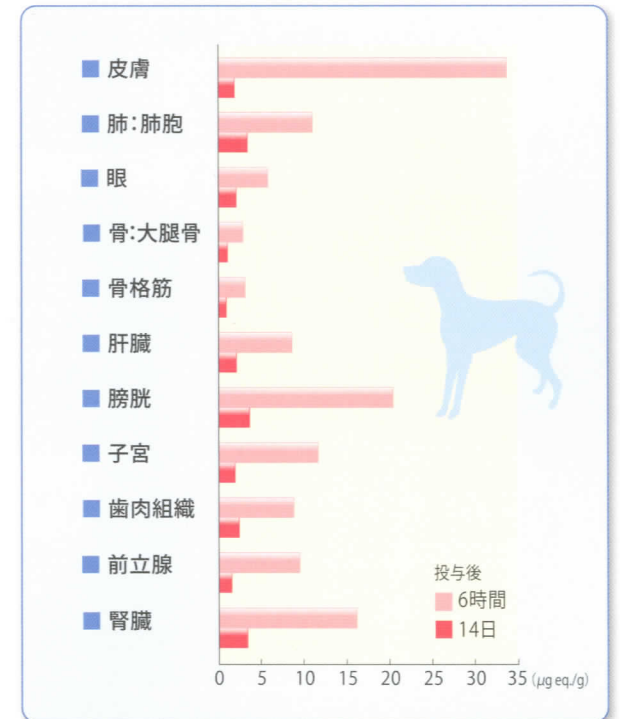
**試験概要**  
 対象: 雄雌の犬  
 方法: [<sup>14</sup>C]-セフォペンシ8mg/kgを単回皮下投与し、臓器・組織内放射能濃度を液体シンチレーションカウンタ(LSC)を用いて測定した。  
 出典: 申請資料

## 【猫における臓器・組織中濃度 (平均値)】



**試験概要**  
 対象: 雄雌の猫  
 方法: [<sup>14</sup>C]-セフォペンシ8mg/kgを単回皮下投与し、臓器・組織内放射能濃度を液体シンチレーションカウンタ(LSC)を用いて測定した。  
 出典: 申請資料

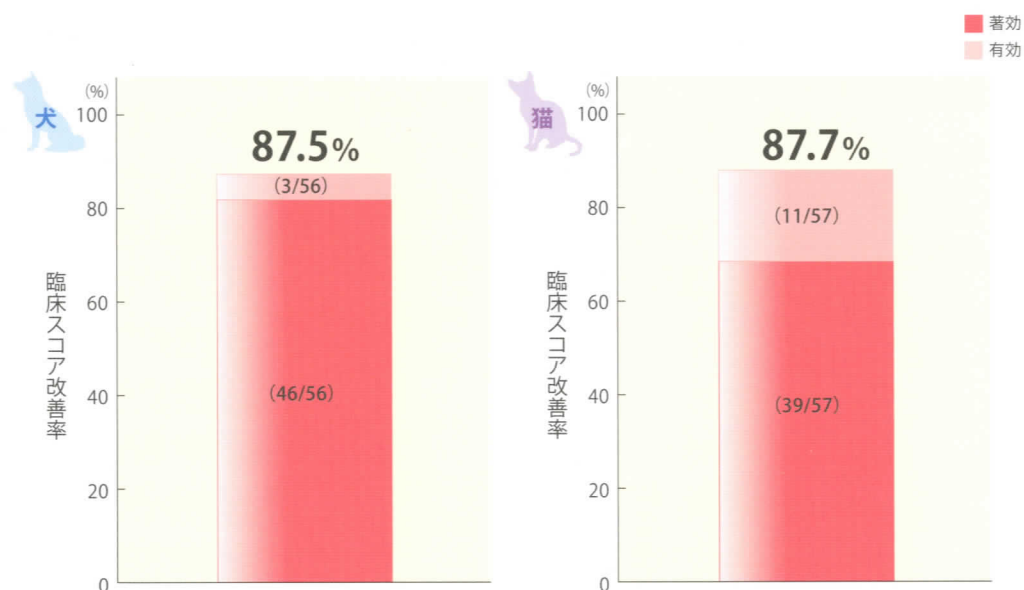
## 【犬における臓器・組織中濃度 (平均値)】



**試験概要**  
 対象: 雄雌の犬  
 方法: [<sup>14</sup>C]-セフォペンシ8mg/kgを単回皮下投与し、臓器・組織内放射能濃度を液体シンチレーションカウンタ(LSC)を用いて測定した。  
 出典: 申請資料

## コンベニア®注は細菌性皮膚感染症に対し、高い有効性が確認されています。

[犬および猫の細菌性皮膚感染症に対するコンベニア®注の臨床スコア改善率 (国内臨床試験)]



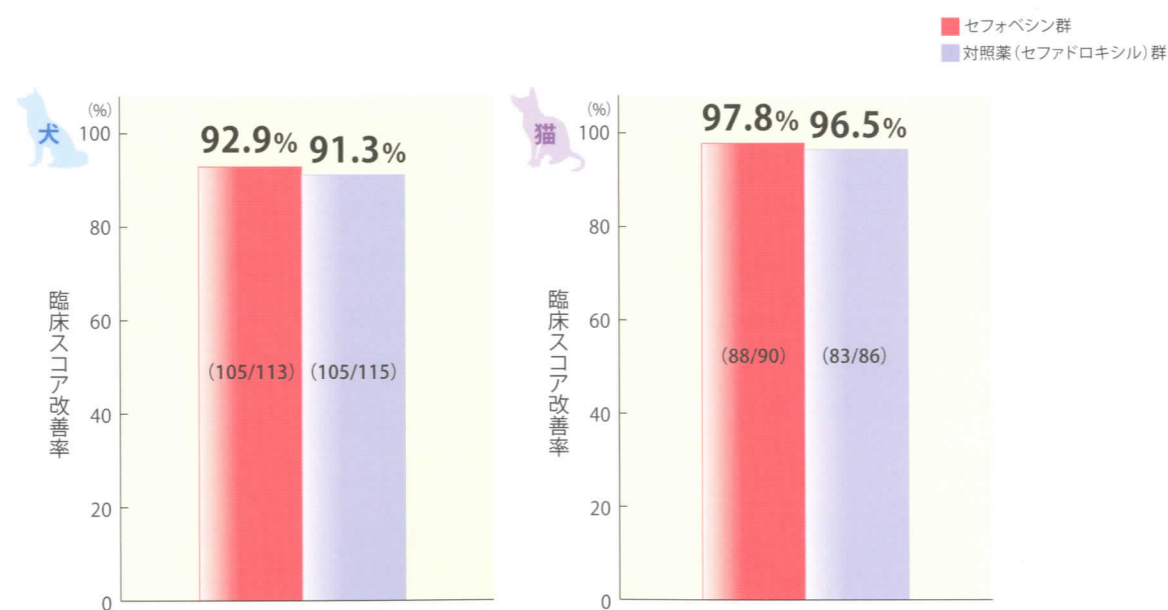
**試験概要**

対象: 犬60頭、猫65頭  
 方法: セフォペン8mg/kgを1回皮下注射し、14日後の有効性を臨床スコアに基づき評価した。  
 ※ 滲出物、腫脹、紅斑および膿疱 (犬のみ) について重症度を4段階で評価し、合計臨床スコアの改善率に基づき分類した。

出典: 申請資料

## コンベニア®注は他のセファロスポリン系と同等の有効性が認められました。

[犬および猫の細菌性皮膚感染症に対するコンベニア®注の臨床スコア改善率 (海外(米国)臨床試験)]



**試験概要**

方法: セフォペン群: 0日目にセフォペン 8mg/kg皮下注射 + プラセボ14日間経口投与  
 対照薬 (セフトロキシル) 群: 0日目にプラセボ皮下注射 + セフトロキシル22mg/kg (猫SID、犬BID) 14日間経口投与  
 セフォペンまたはプラセボの最終皮下注射後14日目に臨床徴候を評価

出典: 社内資料

### 症例紹介

**診断名** 細菌性膿皮症  
**犬種** ウェスティー\*  
**性別** オス  
**年齢** 3歳  
**体重** 9.75kg

**投与 1日目**

コンベニア®注 0.97mL 投与

症状: 重度 中程度 軽度 なし

所見: 背部正中全体に湿性湿疹。痒み(++)。

**投与 9日目**

症状: 重度 中程度 軽度 なし

所見: 発赤、丘疹なくなり痒み(-)。

※ウエスト・ハイランド・ホワイトテリア

かすがい動物病院(愛知県) 畑中 良一 先生 よりご提供

**診断名** 膿皮症  
**犬種** 柴  
**性別** オス  
**年齢** 4歳  
**体重** 13kg

**投与 1日目**

コンベニア®注 1.3mL 投与

症状: 重度 中程度 軽度 なし

所見: 背部に疼痛が出るくらいの膿皮症。痂皮形成。炎症がひどかったため毛刈を実施。

**投与 15日後**

コンベニア®注 1.3mL 投与

症状: 重度 中程度 軽度 なし

所見: 炎症が治まり、痂皮のみ残る。発毛は通常よりも遅い。

**投与 28日後**

症状: 重度 中程度 軽度 なし

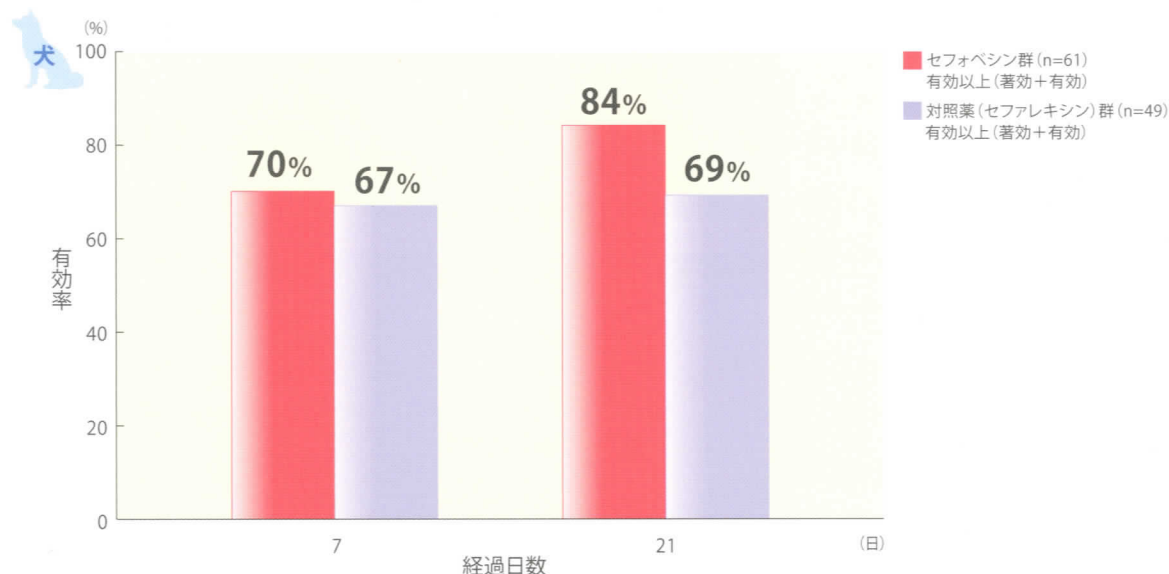
所見: 発毛を認め、炎症も完全になくなり、正常化した。

アリサ動物病院(神奈川県) 佐藤 聡 先生 よりご提供

コンベニア®注は、細菌性尿路感染症に対し、他のセファロスポリン系、ニューキノロン系薬剤と同等の有効性が認められました。

コンベニア®注は、細菌性尿路感染症に対し、対照薬と比べて高い臨床症状改善率を示しました。

[スコア改善率からみた有効率 (海外 (EU) 臨床試験)]

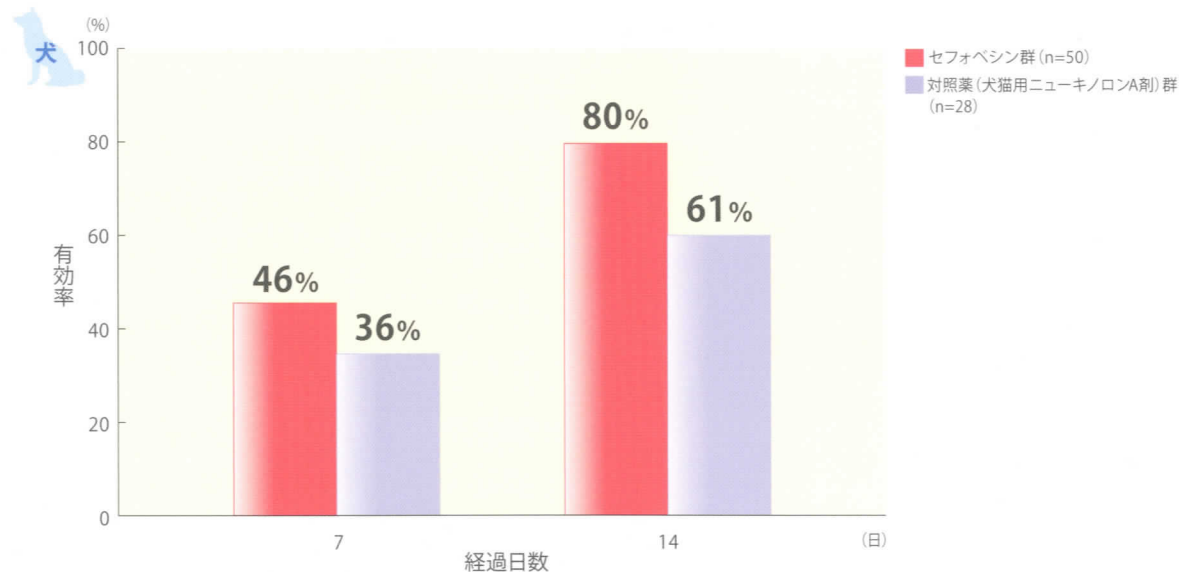


試験概要

対象: 細菌性尿路感染症と診断された犬110頭  
 方法: セフォベシン群: 0日目にセフォベシン8mg/kgを単回皮下投与+1日2回14日間プラセボの錠剤を経口投与  
 対照薬 (セファレキシン) 群: 0日目にプラセボの注射剤を皮下投与+1日2回14日間セファレキシン15mg/kgを経口投与  
 評価基準: 血尿、頻尿、不適切な排尿、排尿痛について臨床症状を2段階評価し、合計臨床スコア改善率に基づき分類した。  
 スコア改善率 (%) = (開始時の合計スコア-終了時の合計スコア) / (開始時の合計スコア) × 100  
 有効性は、スコア改善率が85%以上を「著効」、85%未満70%以上を「有効」、70%未満を「無効」と判定した。

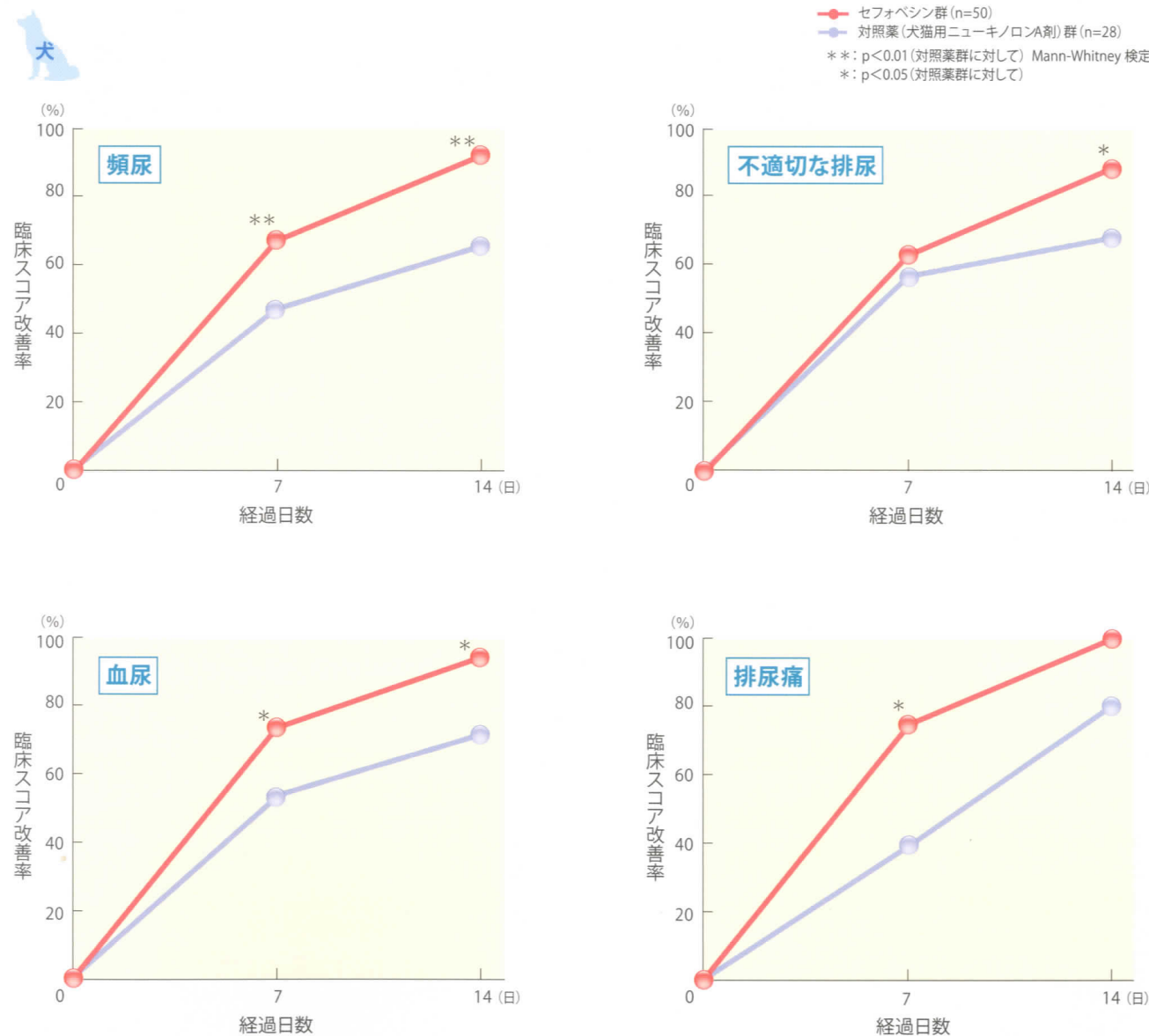
出典: 申請資料

[有効率 (国内臨床試験)]



試験概要 13ページ参照

[臨床スコア改善率 (国内臨床試験)]



試験概要

対象: 細菌性尿路感染症と診断された犬78頭  
 方法: セフォベシン群: 0日目にセフォベシン8mg/kgを単回皮下投与のみ  
 対照薬 (犬猫用ニューキノロンA剤) 群: 0日目に対照薬5mg/kgを皮下投与+翌日から同錠剤を1日1回6日間経口投与  
 評価基準: スコア改善率 (%) = (開始時の合計スコア-終了時の合計スコア) / (開始時の合計スコア) × 100  
 有効性は、スコア改善率が85%以上を「著効」、85%未満70%以上を「有効」、70%未満を「無効」と判定した。  
 有効率 (%) = (著効例数+有効例数) / (判定可能な例数) × 100

項目	スコア				
	0	1	2	3	4
頻尿 (1日当たり)	3回未満	3回	4~6回	7~9回	10回以上
不適切な排尿 <sup>※</sup>	なし	あり			
排尿痛	なし	あり			
血尿	検査紙	陰性	±~+	++	+++
	肉眼	陰性	陰性	陰性	薄ピンク色
膿尿 (WBCs/hpf)	0~2	3~4	5~9	10~15	≥16

※ 通常トイレとして使用している場所以外の不適切な場所での排尿

出典: 申請資料

コンプライアンス  
 製品概要 / 抗菌スペクトル  
 作用機序 / 薬物動態  
 体内分布  
 有効性 (皮膚)  
 有効性 (尿路)  
 安全性 / 他剤併用

臨床試験および使用成績調査における  
コンベニア®注の安全性について、お示します。

細菌性皮膚感染症に対する安全性

犬および猫の細菌性皮膚感染症に対する臨床試験において、コンベニア®注8mg/kgを単回皮下投与、または、セフトロキサリン22mg/kg、BID 14日間経口投与された症例に認められた有害事象は以下に示す通りでした。

【有害事象の発現率(%)】

有害事象	犬		猫	
	セフトロキサリン <sup>1),2)</sup> 8mg/kg (n=369)	セフトロキサリン <sup>2)</sup> 22mg/kg (n=163)	セフトロキサリン <sup>1),2)</sup> 8mg/kg (n=351)	セフトロキサリン <sup>2)</sup> 22mg/kg (n=144)
注射局所の反応	0.3	1.2*	0	0*
下痢/軟便	2.7	5.5	2.8	20.1
食欲減退	2.4	3.7	2.6	3.5
嗜眠	1.1	4.9	2.0	4.9
嘔吐	2.2	8.6	2.8	9.0
その他の臨床徴候	10.0	13.5	6.8	10.4

\*プラセボ投与  
出典：1) 申請資料  
2) 社内資料

細菌性尿路感染症に対する安全性

犬の細菌性尿路感染症に対する国内および海外の臨床試験において、コンベニア®注は、重篤な有害事象は認められませんでした。

【有害事象の発現頭数(海外(EU)臨床試験)】

有害事象	犬	
	セフトロキサリン群 (n=94)	対照薬(セフトロキサリン)群 (n=93)
注射部位の異常	0	0
下痢/軟便	1	3
食欲不振/食欲減退	4	9
元気消失	3	6
嘔吐	5	5
その他	8	8

試験概要 12ページ上図参照

出典：申請資料

【有害事象(国内臨床試験)】

国内で行われた臨床試験においてセフトロキサリンを投与した68症例に有害事象は観察されず、副作用は認められませんでした。

試験概要 13ページ参照

出典：申請資料

コンベニア®注の使用成績調査

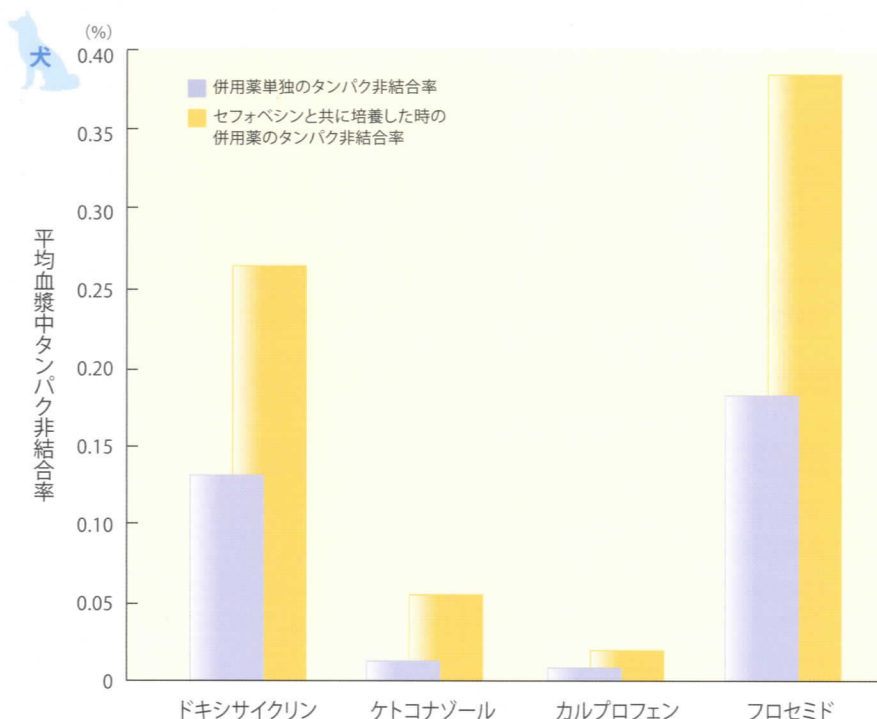
安全性調査	犬			猫		
	初年次	2年次	3年次	初年次	2年次	3年次
調査対象頭数	86	100	126	123	100	121
副作用発現頭数	1	1	3	3	0	1
副作用の種類	下痢	腹部皮膚炎	下痢(2) 嘔吐(1)	嘔吐 食欲不振 抑うつ	—	嘔吐

調査期間：平成19年度～平成21年度  
調査施設数：延べ62施設

出典：コンベニア®注の安全性に関する市販後使用成績調査

コンベニア®注と他剤の併用について

【セフトロキサリンが併用薬のタンパク非結合率におよぼす影響 (in vitro 試験)】



猫においても同様の結果が認められました。

出典：申請資料

犬および猫の血漿を用いた in vitro 試験

セフトロキサリンの血漿タンパク結合率は、他のタンパク結合率の高い薬剤の存在下においても影響は認められませんでした。したがって、他のタンパク結合率の高い薬物を併用しても遊離セフトロキサリン濃度に臨床的に有意な変化は起こらないと考えられました。一方、セフトロキサリンはタンパク結合率の高い他薬物(ドキシサイクリン、ケトコナゾール、カルプロフェン、フロセミド)のタンパク非結合率を増加させました。しかし、臨床場面においての影響は不明です。タンパク結合の問題は、通常、安全域が低く、排泄係数が高く、非経口(静注または筋注)で投与される場合に問題とされています。コンベニア®注は排泄係数が低く、皮下投与で治療係数(安全域)も高いため、問題になる可能性は低いと考えられます。

【併用薬剤(海外(米国)臨床試験)】

併用薬分類	症例数
フィラリア・ノミ・ダニ駆除剤	314
麻酔	259
サプリメント	145
外用薬	57
ワクチン	57
NSAID、ステロイド	36
抗菌剤	31
内部寄生虫駆除剤	24
抗ヒスタミン剤	18
その他	37

出典：社内資料

他剤併用による臨床試験

米国での臨床試験において、コンベニア®注は様々な薬剤と併用されましたが、併用による有害事象は認められませんでした。(犬・猫 計540頭)

